

「大学の完成はいつか?」という勝海舟の質問に対して新島は「200〜300年かかるであろう」と答えたという。では「大学の完成」とは何か?時代は変遷するものであり、それに応じた大学のあり方は変化してゆくであろう。もちろん設立の時点で時代の変遷を予想することは不可能である。したがって永久に完成しない可能性もある。しかし、大学設立の理念が時代の変遷に対して、ヒトの究極のあり方が明確なものであればそ

れを目指して進めばよいことになる。新島が答えた200〜300年というのは、長い時間が必要であると読み取ることもできよう。すなわち、当時の状況から新しい理念の基に過去の捨てて新しくころを捨て、新しい試みを取り入れてヒトの究極のあり方を目指せる学生を育てるには長い時間がかかるとしたのであろう。しかし、実際に同志社の創立から今日まで日本は戦争を含めて波瀾万丈の時代を経てきた。その中で、大学がどのよ

うな役割を果たすことができたであろうか。このことを客観的に考える必要がある。確かに、第2次世界大戦後の日本のめざましい復興は、教育を受けた若者たちに負うところが多い。しかし今日の現状を考えると果たしてそれだけでよかつたのであろうか。

より、生を終えるまでの間を人工能に遊んでもらっている感が否めない。それがヒトの究極のあり方であればそれでよいかもしれないが、人間そのものの教養や向上心が不足していれば大学を含めた諸学校の使命からすれば本末転倒であろう。

座談会に加わってくださった方々、講演してくださった方々、執筆してくださった多くの方々、紙面を借りてお礼申し上げます。

(吉門)

●同志社広報委員会小委員会委員

ABC順・○印委員長

- 大学グローバル地域文化学部教授 源馬 英人
- 幼稚園教諭 市瀬 ゆかり
- 大学心理学部准教授 石川 信
- 大学広報部長 岩田 一喬
- 中学校・高等学校事務長 鎌田 伸一
- 大学神学部准教授 勝又 悦子
- 国際中学校・高等学校事務長 貴志 浩行
- 女子大学広報部広報室広報課長 北村 博子
- 女子大学現代社会学部准教授 虎北 優子
- 大学生命医科学部准教授 小林 太子
- 女子大学看護学部准教授 光木 耕幸
- 大学広報部広報課長 中村 伸也
- 女子大学薬学部専任講師 成橋 和正
- 大学経済学部准教授 奥田 以布
- 大学文学部准教授 大沼 由中
- 女子大学表象文化学部教授 大島 正肇
- 大学政策学部教授 太田 聡
- 女子大学生活科学部准教授 太矢 根
- 小学校事務長 齋藤 朱未
- 女子大学学芸学部教授 齋藤 亮輔
- 大学グローバル・コミュニケーション学部助教 鈴木 美紀子
- 法人事務部校友同窓課長 田中 裕一
- 同志社国際学院事務長 谷口 隆秀
- 大学スポーツ健康科学部教授 附田 宏臣
- 大学文化情報学部准教授 津村 雅之
- 大学商学部准教授 内野 栄一
- 香里中学校・高等学校事務長 内山 千秋
- 女子中学校・高等学校事務長 植村 千亮
- 大学社会学部教授 吉田 亮
- 法人事務部長 吉田 由紀
- 大学理工学部教授 吉門 進三

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

- ・送料(1冊分200円)のみのご負担でご講読いただけます。
- ・お申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。
- ・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 同志社大学広報課

同志社時報 第143号
 編集人 吉門進三
 発行人 水谷 誠
 発行 学校法人同志社
 同志社大学広報課同志社時報係
 電話 (075) 251-3120
 印刷所 株式会社 石田大成社
 2017年4月1日発行

【訂正】

142号に誤りがありました。下記のとおり訂正し、お詫びします。
 「建物案内」 前から14行目 ×2億5千万ドル ○2万5千ドル